

令和2年度 部局経営目標（達成状況）

年度	令和2年度	作成日	令和3年3月31日									
部局名	教育委員会	部局長名	赤田 憲昭									
(1) 部局の役割・使命（ミッション）・経営方針												
<p>■一人ひとりの可能性を広げる【No.4：質の高い教育をみんなに】</p> <p>それぞれの価値観を互いに認めあい、市民の誰もが自らの可能性を十分に引き出し伸ばすためには、多彩で豊かな教育を受けることが必要です。それを困難にしている様々な要因を解消し、大切な人権である「教育を受ける権利」を保障するために最大限の支援と真庭で学べる選択の幅を広げます。</p> <p>■真庭を愛する「ひと」をつくる【No.1 1：住み続けられるまちづくりを】</p> <p>真庭市の暮らし方や価値を認識する土台となるのは、真庭市を知ることです。地域のつながりを生かして地域文化を誇りをもって伝承しながら、市外からの評価を正確に受け止める知識と態度を養い、地域も人も成長するよう支援していきます。</p> <p>■教育を地域で支える仕組みをつくる【No.1 1：住み続けられるまちづくりを】</p> <p>安全安心な地域は、それぞれが認めあい関わりあうことによって支えられ、より高まっています。世代を超えて互いを応援する教育を、教育施設の在り方も含めて真庭市で実現することで、地域の持続可能性を高めています。</p> <p>■暮らしの中にある豊かさを感じる心と体を育む【No.3：すべての人に健康と福祉を】</p> <p>市民の感受性と知性を涵養するための情報や機会・交流の場、さらに健やかな人生を暮らすための「健康づくり」に自ら取り組む環境を創出・提供し、多彩な豊かさや幸せを実感する人を増やします。</p>												
(2) 事業成果目標		指標名及び目標値										
<p>●授業改善による学力向上</p> <p>毎年実施する学力・学習状況調査の結果を活用した分析、研究、語り合い、研修を各学校で行い、授業改善に向けた取組を推進していきます。管理職の授業参観、家庭学習習慣の形成、放課後学習サポート事業による学力補充、地域ボランティアによる学習支援等の取組を推進し、学力向上に努めます。</p> <p>小学校、中学校ともに安定した学力の定着を図ります。</p>		<p>指標：国語、算数・数学、外国語の授業が好きだと回答する児童生徒の割合</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>評価</th> <th>次年度への課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>70%</td> <td>63%</td> <td>真庭市の児童生徒は授業の大切さを理解し、学習の必要性は感じています。児童生徒の授業理解度は低くないものの、授業自体を改善していく必要があり、また、家庭学習の充実には十分結びついているとは言えません。</td> <td>長期的な目標としての授業改善、家庭学習の充実が求められます。ICTの活用を含め、質の高い授業の提供と、授業と家庭をつなぐ学習環境の提供が課題と言えます。</td> </tr> </tbody> </table>			目標値	実績値	評価	次年度への課題	70%	63%	真庭市の児童生徒は授業の大切さを理解し、学習の必要性は感じています。児童生徒の授業理解度は低くないものの、授業自体を改善していく必要があり、また、家庭学習の充実には十分結びついているとは言えません。	長期的な目標としての授業改善、家庭学習の充実が求められます。ICTの活用を含め、質の高い授業の提供と、授業と家庭をつなぐ学習環境の提供が課題と言えます。
目標値	実績値	評価	次年度への課題									
70%	63%	真庭市の児童生徒は授業の大切さを理解し、学習の必要性は感じています。児童生徒の授業理解度は低くないものの、授業自体を改善していく必要があり、また、家庭学習の充実には十分結びついているとは言えません。	長期的な目標としての授業改善、家庭学習の充実が求められます。ICTの活用を含め、質の高い授業の提供と、授業と家庭をつなぐ学習環境の提供が課題と言えます。									
<p>●中学校における英語教育</p> <p>中学校の英語授業の改善に取り組むと同時に、英検補助事業の周知を図り、課題に挑戦する態度を養い、英検3級程度の英語力を持っている生徒の育成を図ります。</p> <p>令和元年度 英検補助事業利用者は3級が66人、準2級が15人、2級が1名で、前年より人数が減っています。今年度の受験者の割合の増加を目指すと共に、英検3級程度以上の英語力を有する生徒を育成していきます。</p>		<p>指標：英検3級程度の英語力を有する生徒の割合</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>評価</th> <th>次年度への課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>50%</td> <td>44%</td> <td>英語検定3級程度の英語力は中学校3年生程度の英語力であり、1、2年生で身につけるには英語に関する興味関心が必要です。派遣となるALTと協力し中学生年代の苦手意識の克服に努める必要があります。</td> <td>英語検定の受験者の増加を目指し、受験機会の提供と市教委主催での英語検定の実施を検討しています。ALTが委託から派遣に代わるため、小学校での外国語への慣れ親しみを大切に、中学校期での苦手意識を減らす必要があります。</td> </tr> </tbody> </table>			目標値	実績値	評価	次年度への課題	50%	44%	英語検定3級程度の英語力は中学校3年生程度の英語力であり、1、2年生で身につけるには英語に関する興味関心が必要です。派遣となるALTと協力し中学生年代の苦手意識の克服に努める必要があります。	英語検定の受験者の増加を目指し、受験機会の提供と市教委主催での英語検定の実施を検討しています。ALTが委託から派遣に代わるため、小学校での外国語への慣れ親しみを大切に、中学校期での苦手意識を減らす必要があります。
目標値	実績値	評価	次年度への課題									
50%	44%	英語検定3級程度の英語力は中学校3年生程度の英語力であり、1、2年生で身につけるには英語に関する興味関心が必要です。派遣となるALTと協力し中学生年代の苦手意識の克服に努める必要があります。	英語検定の受験者の増加を目指し、受験機会の提供と市教委主催での英語検定の実施を検討しています。ALTが委託から派遣に代わるため、小学校での外国語への慣れ親しみを大切に、中学校期での苦手意識を減らす必要があります。									

●ICT環境の整備（GIGAスクール構想の実現） GIGAスクール構想の実現に向け、令和2年度はネットワーク整備やタブレット端末の一部導入を行う。令和3年度からの本格活用に向け、学校同士の交流連携や個別最適化に向けた体制づくりを行います。 また、AR（拡張現実）を活用した郷育の推進に向けて、学校での利用促進を図ります。	指標：毎日ICT機器を活用していると回答する教員の割合			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	95%	86%	ネットワーク整備と児童生徒用端末の整備はR2年度中に完了。教職員がICT機器を活用することは定着しているが、児童生徒が授業で活用することについてはこれからの課題です。毎日の授業での活用を充実していく必要があります。	体制整備は完了しているもので、これから活用の充実が求められます。すでに式典でのZoomの活用や、Webアンケートの活用はできており、今後は日々の授業における利用実績が求められます。
●インクルーシブ教育の推進 真庭市が目指す「共生社会の実現」に向け、真庭市立小中学校において、インクルーシブ教育の推進を図ります。通常学級における特別支援教育の観点の向上を図り、推進チーム員の巡回指導などで通常学級で共に学ぶ体制づくりを推進します。また、個別支援の充実と関係機関、校種間等での連携強化を図ることで、切れ目のない支援体制を構築していきます。また、教職員の力量向上のため、研修の充実を図ります。	指標：支援学級児童生徒の在籍する通常学級の学級満足度			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	70%	25%	特別支援推進チーム員の巡回相談やブロックリーダーの指導など個別支援について学ぶ機会は増えていますが、通常学級におけるインクルーシブ教育については課題が多いと言えます。	通常学級におけるインクルーシブ教育の充実を図る必要があります。木山小で始まるサテライト通級指導教室の運用を始め、連携強化を図ります。
●キャリア教育の推進 各学校において児童生徒が様々な経験を通して、社会的・職業的自立に向け必要となる能力や態度を育てていきます。今年度よりキャリアパスポートの活用も始まり、自らの目標や行動を定期的に振り返ることで、児童生徒が自らの力で生き方を選択していくことができるよう必要な能力や態度の育成を図ります。	指標：自分には良いところがあると思う児童生徒の割合			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	小学校 85% 中学校 80%	小学校 77% 中学校 82%	真庭市の郷育として各学校において様々な体験活動を工夫して行っています。令和2年度はコロナで実施できなかった事業もありましたが、各校で工夫した取り組みができています。	キャリアパスポートの効果的な運用や真庭市のスタンダードとして「バイオマスマー」の市内全小学校実施などを行う等、今後さらなる充実を図っていきます。
●学校給食の地産地消の推進 学校給食にて真庭市の食材のみを使用した「真庭食材の日」を実施し、その評価により課題を検証し地産地消の推進に努めます。（4品目＝じゃがいも、玉ねぎ、大根、キャベツ）	指標：4品目の地産地消率			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	4品目の旬時期は全量を地場産物使用	じゃがいも 30.0%、 玉ねぎ 52.5%、 大根 83.9%、 キャベツ 67.5%	年間を通じた使用量の全量調査により、市内産品の使用量、納品時期等の利用実態が把握できたため、今後の学校給食食材の地産地消を推進するための基礎データとしての活用が見込まれます。	市内産物の安定的な納品など流通面での課題や献立での工夫等の課題を検証分析し、市内産品の利用率の向上の具体的な方策の検討が必要です。

●地域と協働する学校作り ○学校運営協議会（コミュニティスクール）の設立推進と地域学校協働本部事業との連携強化 地域と共にある学校を目指し、学校と地域と家庭が共に子どもを育む体制として、学校運営協議会制度への移行を推進します。学校と地域と家庭が、自分たちの地域の子どもの目指す姿を共有し、子どもを真ん中に学校・地域・家庭がともに育つことを目指します。地域の学校参画の形として学校運営協議会制度（コミュニティスクール）への移行を推進していきます。	指標：R2年度学校運営協議会実施決定校数			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	7校	6校	目標の7校には達していませんが、学校運営協議会制度の設立については意識づけができています。令和2年度は制度周知のために、指導主事が各校で説明を行いました。令和3年度と令和4年度で市内全校の移行の土台はできつつあります。	学校運営協議会制度の設立ができた学校については、運用について確認を行います。また、これから設立していく学校については、引き続き学校支援を行い、設立を下支えしていきます。
●(仮称)落合学校給食共同調理場整備の推進 真庭市小・中学校給食施設整備計画に基づき、安全・安心で効果的な学校給食の共同調理場化事業を進めています。令和元年度に実施設計が完了しましたが、令和4年4月からの給食提供開始に向け、工事実施やその他の業務を推進します。	指標：工事請負契約締結			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	令和2年9月議会議決	令和2年9月29日議決	予定どおり、令和2年9月議会において建築主体工事の工事請負契約の議決をいただきました。	令和4年4月からの稼働開始に向け、備品整備や給食受取校のプラットフォーム整備工事などの工程管理を計画的に行う必要があります。
●学校給食費の公会計化 令和元年度に条例・関係規則等を制定しました。令和2年4月から公会計(一般会計)に移行しました。公会計での運用が円滑にできるように努めます。	指標：給食費収納率(3月31日時点)			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	100%	99.79%	令和2年4月から運用を行い学校事務は90%軽減しましたが、学校給食管理システムの負担が若干増えました。給食費の納入は毎期60～80件程度滞納があり、翌月には殆ど納付はありますが、うち年度末時点で6件程度の滞納については法的措置が必要です。	令和2年度は初年度でもあり、情報公社と年間のスケジュール等の調整が不十分でした。情報公社と協議を重ね、適正な学校給食費の徴収、業務管理に努める必要があります。

●市民大学講座の開催 まにわ市民大学講座は、歴史、文化、産業などさまざまなテーマから、全国的にも著名な講師を招き、市民等に学びの場を提供していきます。単なる学びの場としてではなく、一人ひとりが関心を高め、自身で調べ、実践したりする機運を醸成し、知の循環をつくる第一歩とします。幅広い世代の学習意欲を向上させる講座を実施して、真庭の魅力を市民へ伝えるとともに、全国へ向けて情報発信を行い、真庭市のイメージアップを図る「地域創造講座」開催にあたっては、実行委員会を設置して、市民と一緒に開催していきます。また、ふるさとを知り、ふるさとへの思いを育てる「郷育講座」を実施し、地域づくりに寄与していきます。	指標：講座参加者数			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	1,000人	252人 地域創造講座 222人 郷育講座 30人	コロナ禍において、感染症予防対策をとりながら、実施しました。地域創造講座については、平田オリザ氏を講師に、会場＋有料オンライン配信を実施するなど、新しい試みを行いました。郷育講座は「姫新線」をテーマに実施。身近なことを深く学べたことに加え、姫新線の存続についても考える機会となりました。	コロナ禍において、感染症予防対策をとりながら実施します。少しでも多くの市民に学びの機会を提供するため、市民のニーズを反映させた講座を開催します。
●市民に親しまれる図書館づくり 平成27年6月に図書館基本計画を策定。役割や施策を体系的に整理し、着実に機能強化を図っていくために進捗状況や達成度を評価できるようにするため計画の改定を令和2年度で行います。改定にあたっては、「真庭市図書館基本構想」との統合により実施します。幼少期の読書はじめや、小・中学生の読書活動の取り組みを明確にする「子ども読書活動推進計画」を合わせて策定します。改定にあたっては、「真庭市図書館基本計画策定委員会」を設置し、有識者や市民の代表を委員に選任し、意見を反映します。	指標：①年間貸出冊数／人口、②計画改定			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	①年間6冊／人 ②計画改定完了	①年間5.9冊／人 ②計画パブリックコメント実施中	市民ワークショップ「図書館そだて会議」を各図書館で2回、「策定委員会」を4回開催し、市民や学識経験者の意見を反映させた「図書館みらい計画」をまとめ、パブリックコメント実施しています。この計画は、「基本構想」で示した5つのめざす図書館像をベースとし、子ども読書活動推進計画を内包しています。	4/1～4/30までパブリックコメントを実施しています。寄せられた意見を、必要に応じて計画に反映します。今後は、この計画を確定した後、市民に周知し、市民と共に実現していくことが重要です。
●中央図書館の拠点機能の強化 教育委員会内に新たに「図書館振興室」を設置し、中央図書館と地区図書館の連携強化、中央図書館から学校図書館への司書の派遣など、それぞれの連携を強化。図書館に市民が集い、学びと文化の拠点としての役割を果たすとともに、更に学びからその成果が地域活動につながるよう努めます。	指標：①ワークショップの回数、②学校図書館への貸出し冊数			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	①7回以上 ②19,200冊以上	①14回 ②15,225冊	地区図書館への司書の派遣や合同イベントの実施などの連携を強化を実施しました。学校図書館への司書の派遣、定期連絡会議の開催、合同研修会開催など、連携強化を行いました。また、ドイツ映画祭開催など地域活動につながる活動を行いました。	地区図書館では、司書の人材不足などから、図書館により、イベントの実施や展示の回数に差があります。中央図書館が企画面をサポートする必要があります。